

2010 年度研究助成 研究成果報告書 (HP 掲載用)

研究課題名：「食生活における異文化間コミュニケーションと語学ニーズ分析：(食を通じた国際交流と日英版食育ハンドブック作成のための予備調査)」

所属大学・機関名 中村学園大学短期大学部

氏名 津田 晶子

【研究要旨】

本研究では、食の国際交流の現場で活用する「食育ハンドブック」開発に向けて、福岡県在住の外国人留学生と、ホームステイ経験者(受け入れ側ファミリーと海外からの参加児童引率者)を対象に、日本の食生活における異文化間コミュニケーションについて、日英両言語による 1. インタビュー、2. 質問紙調査、3. 食事記録の調査を元に多角的なニーズ分析を実施した。調査から、食行動における日本人と外国人の間のコミュニケーションの課題が明らかになった。日本人側の問題点については、市民向け公開講座「食文化を通じた英語コミュニケーション」を通じて、一般に啓発した。

【研究目的】

日本に長期的に滞在する外国人を対象に、宗教や文化などによる食生活の違いが、どのように学校・職場・家庭生活での言語コミュニケーションに影響を与えるかを複数の調査により明らかにし、①食育ハンドブック作成による情報提供②食育を通じた国際交流を実施するための予備調査を行う。

【研究方法】

調査 1：日本の食生活におけるコミュニケーション調査：対象者：福岡県内の大学、日本語学校の留学生を対象にした質問紙調査(英語、日本語)
調査 2：食生活とコミュニケーションのレポート：対象者：福岡県内の大学、日本語学校の留学生を対象にした 1 か月間の食生活とエピソードの写真と自由記述によるレポート(英語、日本語)
調査 3：NP0 団体、アジア太平洋子ども会議イン福岡の参加者を対象にした日本人家庭におけるホームステイ経験での食生活とコミュニケーションの調査：(アジア太平洋の各国(約 40 カ国)から福岡への引率経験者対象の Eメールによる質問紙調査(英語、日本語))
調査 4：NP0 団体、アジア太平洋子ども会議イン福岡ホームステイ部会での聞き取り調査(日本語)

【研究結果】

4 つの調査を通じて、以下の 3 点が明らかになった。(1) 宗教的タブー、ベジタリアン、食物アレルギーに関する日本人の理解不足、(2) 日本人の外食や家庭内の調理におけるジェンダーの問題、(3) 日本人と外国人の食文化を通じた国際交流のあり方

【考察】

留学や就業といった長期的な目的で日本に居住する外国人にとっては食生活におけるコミュニケーションの問題は重要であるにもかかわらず、ほとんど研究されていないことが明らかになった。質問紙や食生活のレポートの自由記述に描かれたエピソードには、実際に外国人が日々、直面している問題についての記述が含まれており、官公庁、学校やサービス業など、外国人と接する機会が多い機関にとって有益な情報が含まれていた。

【結論】

本調査で得られた知見を元に、栄養系学生と英文学学生、英語教員と専門教員、日本人教員と外国人教員の協業により、「日本の食文化とマナーを英語で解説する日英版ハンドブックの開発」を大学教育の一環として実践し、地域の国際化に貢献したいと考えている。